

先生のオススメ！写真集篇

展示期間： 2013年12月2日 〜 12月27日

出展資料リスト

環境・建築デザイン学科

花田佳明先生のオススメ！

茨木のり子の家

茨木のり子／著　平凡社

図書　請求記号： 911.52 / IBA【**貸出用複本有り**】

「自分の感受性くらい／自分で守れ／ばかものよ」、あるいは「わたしが一番きれいだったとき／街々はがらがらと崩れていって／とんでもないところから／青空なんかが見えたりした」といった詩句を教科書等で読んだ人も多いのではないか。戦後を代表する女性詩人・茨木のり子の作品である。本書は、彼女が1958年から約50年間を過ごした自宅を写した写真集だ。東京郊外の住宅地にあるその家は、木造2階建て、片流れ屋根、1階はピロティ、2階が主な生活空間という、いわゆる「モダンリビング」の香りに満ちた小さな建物で、茨木が従姉妹の建築家と一緒に設計した。そこに流れた約50年という時間の痕跡を、本書に納められた写真は見事に写し取っている。本全体に溢れる抒情的でしかも凜とした気配は、彼女の詩そのものである。本書を手にした人は、建築やモノが記憶の器であり運び手であることを実感するだろう。茨木は2006年にこの家で亡くなった。

藤山哲朗先生のオススメ！

磯崎新＋篠山紀信建築行脚3

逸楽と憂愁のローマ：ヴィッラ・アドリアーナ

磯崎新、篠山紀信、青柳正規／著　六耀社

図書　請求記号： 520.87 / ISO / 3【**貸出用複本有り※**】

「建築行脚」シリーズは、建築家の磯崎新が厳選した建築を写真家の篠山紀信が撮影する企画でした。この「ヴィッラ・アドリアーナ」はローマ皇帝ハドリアヌスが2世紀に建てた離宮です。旅と写真は切り離せませんが、ヴィッラ・アドリアーナは写真のない時代に皇帝が広大な領土を視察して、記憶に残った風景を再現しようとした施設です。いまではすっかり廃墟ですが、来訪者は残された断片から、皇帝の記憶の地層を探るように建物や景観を見て回ります。とすれば、ここに納められた写真は脳のスキヤニングデータのようなものです。こうした重層的な読解の可能性が、古典主義の建築でありながら現代の前衛的な建築家に強い影響を与えました。

※貸出用は「ヴィッラ・アドリアーナ：ローマ時代（磯崎新の建築談義#03）」＜新装版＞ 523/ISO/3です。

クラフト・美術学科

笹谷晃生先生のオススメ！

亡骸劇場

小林伸一郎／著　講談社

図書　請求記号： 748 / KOB【**貸出用複本有り**】

小林伸一郎

小林伸一郎氏は廃墟の写真でよく知られているが、亡骸劇場ではモーテル、ホテル、病院、遊園地、学校などに残されたビーナス像、展望大浴場、手術台、ウルトラマンや観覧車、理科標本などが、かつてそこで営まれた男や女、子供たちのさまざまな享楽や驚きなどの名残をいまもとどめている。キッチンで懐かしい像や看板、壁画などはいまもカラフルな色彩を保ち、朽ちかけた建物の中にひっそりと息づいているようだ。ローリー・シモンズの人形を使った表現に通じるものをどこか感じさせてくれる魅力があり、廃墟とはまた異なる人間臭いモノたちの異世界を見ることができると。

岩田広己先生のオススメ！

Karl Blossfeldt：The Complete Published Work

Hans Christian Adam／編集

図書　請求記号： 748 / BL0a【**貸出不可**】

Karl Blossfeldt

今はどの書店の棚にもあるが、カール・ブロスフェルトの写真集にはじめて出会ったのは20年以上前になるフランスの本屋だった。今のように書籍通販アマゾンなども無く、マニアックな本を手にとる機会が少なかった時、自然美をテーマに作品を作っていた自分にとって当時とても刺激的に感じたものであった。モノクロでリアルに植物という生命体を様々な視点で描写しているが、冷的で生命感が感じられず自然物のリアルなディテール、形が強調され、ストレートに形体の造形性や存在感が伝わってきた事を記憶している。第一次世界大戦後、克明な形態描写と社会批判的な冷笑的なスタイルを特徴とするリアリズム絵画の総称である新即物主義の時代、ドイツの彫刻の講師をしていたカール・ブロスフェルトは学生を指導する上で原始的なレベルで造形の価値を感じさせるための教材として写真を使用していたらしい。

この本は自分にとって作品を制作する上で形体、色彩、質感の調和の重要性を再認識させてくれた貴重な本である。

先生のオススメ！写真集篇

出展資料リスト

映像表現学科

宮本隆司先生のオススメ！

螺旋海岸：album

志賀理江子／著　赤々舎

図書　請求記号： 748 / SHI【**貸出用複本有り**】

志賀理江子

2011.3.11の大震災以降、あらゆる表現活動がその存在意義を問い直されているように思われます。写真も例外ではなく震災以降、写真による表現は可能かという根源的な問題が問われています。そうした中で、被災者であり表現者であるという特別な立ち位置にある志賀理江子が、被災現場から我々に投げかける写真映像は不思議に謎めいており、見る者を深い闇の奥へと導き入れます。この写真集は、いわゆる津波被災写真集ではありません。震災以前から宮城県名取市北釜に住みながら地域を撮影していた志賀理江子が、3.11の津波に被災して機材も家も流され、かろうじて身一つ助かりながら、なお撮影を続けて作られた写真集です。地域の人々、海辺の光景、津波に流された瓦礫、大洪水の後に残された様々な物と人が渦巻き状に広がっているような写真集です。

吉田雅則先生のオススメ！

吉田雅則先生のオススメ！

More than Human

Tim Flach／著

図書　請求記号： 748 / FLA【**貸出用複本有り**】

Tim Flach

「人間以上」と題されたこの本に登場する生き物たちは、どれも素晴らしい色彩や形態を伴って多彩な表情を見せてくれます。人間はこの地球上で最も進化した生き物だと自惚れているけれど、実はそれって大きな間違いなのではないか？ページを捲るうち、理屈抜きでそんな思いにとらわれてしまう写真集です。美術やデザインの勉強をしている皆さんにとっては、どんなジャンルであっても参考になる「カタチ」が満載の資料としても価値のある一冊と言えるでしょう。

展示期間： 2013年12月2日 〜 12月27日

出展資料リスト

まんが表現学科

橋本英治先生のオススメ！

愛しのチロ

荒木経惟／著　平凡社

図書　請求記号： B748 / ARA【**貸出用複本有り**】

荒木経惟

荒木経惟の写真集です。経惟はノブヨシと読みます。結構難読の名前だと思います。一般にはアラーキーと呼ばれている写真家です。挑発的できわどい性表現があったりして取っつきにくい写真家かもしれません。しかし、冷酷な視線であるカメラが、この写真家の手によって愛のまなざしに変わることが実感できる写真集です。『センチメンタルな旅・冬の旅』、『愛しのチロ』、『チロ愛死』の3部作は家族の記録として白眉です。図書館でご覧になって気に入ったら自分用を買ってください。写真集はコレクションの対象になるものではありません。人に見せびらかしたりするのではなく、時々手に取ってまなざしを注ぐものです。10年先、20年先でもその価値は衰えません。

橋本英治

山本忠宏先生のオススメ！

山本忠宏先生のオススメ！

Brought to Light：

Photography and the Invisible,1840-1900

Corey Keller／著　Yale University Press

図書　請求記号： 740.2 / BRO【**貸出用複本有り**】

Corey Keller

顕微鏡、望遠鏡、運動、電気と磁気、X線、魂。この写真集の目次の抜粋である。19世紀前半に写真が誕生して以来、人々はそれまで「不可視のもの」としてきた事象について写真術を用いて「可視化」する試みを行ってきた。例えば、運動は見えてはいるが、その細部までは人間の動体視力で捉えられない。写真というメカニズムが入り込むことで可視化し理解することができるのである。これらの写真には科学的探求にとどまらない視覚文化がある。自然を「再発見」していく人間の欲望が生成した100年以上前のイメージに対峙することは、わたしたちの時間の速度を少しだけ緩めてくれるだろう。初期映画の研究者トム・ガニングの論文も所収。

先生のオススメ！写真集篇

展示期間： 2013年12月2日 〜 12月27日



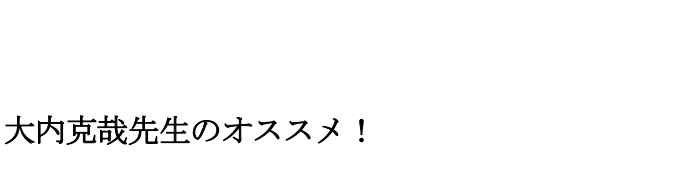
基礎教育センター

久富敏明先生のオススメ！

日本の民家一九五五年<特装版>
二川幸夫／企画・編集・撮影
エーディーエー・エディタ・トーキョー
図書　請求記号： 521.86 / NIH **【貸出用複本有り※】**

二川幸夫のモノクロの特徴は、白飛びと黒つぶれの臨界値を極めることによって初めて表現が可能となる「光の空間」にある。それはインタビューで二川が語る、「断られても何日も何日もその民家に早朝から通った」というエピソードに繋がっている。その強い意志は、撮影する建築のイメージの中に、完全なる白と究極の黒の構図に対する確信によって支えられていたに違いない。二川は、光の美しさを捕まえるために建築を撮り、光を受けて美しく立ち上がる空間を視つめていたのだ。

※貸出用は<普及版>です。



ビジュアルハッブル望遠鏡が見た宇宙
デビッド・デボーキン、ロバート・W. スミス／著
日経ナショナルジオグラフィック社
図書　請求記号： 442.3 / DEV **【貸出用複本有り】**

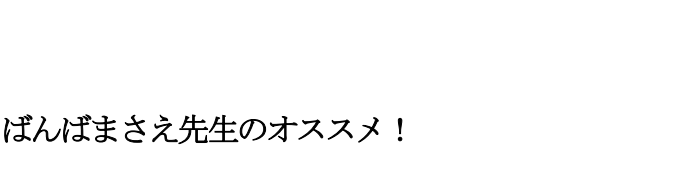
今回紹介する、『ビジュアルハッブル望遠鏡が見た宇宙』は、世界で最も有名な望遠鏡であるハッブル宇宙望遠鏡により撮影された、息を飲むような美しい画像が集められた写真集です。更にこの本では、打ち上げ直後に分かった大問題とそれがどのようにして解決されたか、またこの望遠鏡によってどういったことが明らかになったかということも分かりやすく記されています。これらの画像の一つ一つは、皆さんに天体の美しさを遺憾なく教えてくれますが、実はこれらの多くは天文ファンが普段使っている望遠鏡で観ることができますし、更にいくつかの対象はデジタルカメラ等を使って撮影すれば(もちろん解像度は及ばないものの)、同様な画像を得ることさえ可能です。もし望遠鏡を覗く機会がありましたら、自分の目でこれらの星々を眺めて、我々の住んでいる宇宙がいかに美しい天体に囲まれているかということにゆっくり思いを馳せてみてはいかがでしょうか？

ファッションデザイン学科

野口正孝先生のオススメ！

地球風俗曼陀羅：
浜野安宏ファッションジオグラフィティ
浜野安宏／構成・文　内藤忠行／撮影
神戸新聞総合出版センター
図書　請求記号： 382 / HAM **【貸出用複本有り】**

1981年、神戸ポートアイランドの竣工に合わせてポートピア’81が開催された。その博覧会のパビリオン「ファッションライブシアター」のためにファッションプロデューサー浜野安宏が行った海外調査の成果が本書に収められている。世界中が画一化されて西欧主義の価値観で作られたファッションで覆い尽くされている中、モンゴロイドとしてのわたしたちのルーツを見つめ、西欧主義に染まらない南米グアテマラ、バリ、チベット等の衣の美しさを示してくれた本書は、当時、ファッション業界に身を置き始めたばかりの私にとって新鮮であった以上に衝撃的でした。花色の野良着を身に纏う男たち、自然に習って大地に衣で花を咲かせる乙女たち、それらを写し撮った内藤忠行の写真が眼に染みた。



魔の山：中川幸夫作品集
中川幸夫／著　求龍堂
図書　請求記号： 793 / NAK **【貸出不可】**

「花坊主」という作品を初めて見たのは高校生の時だったと思う。その時の衝撃は今でも忘れられない。凍ったような物体から滴り落ちる鮮烈な赤。頭が混乱した。生け花のことは良く知らなかったが、これが一般的な生け花とは全く違うことだけはわかった。「花を乗りこえる。剪って、切って、生身からしたたる粘液が、いけるわたしの苦悩のなかから滲みでるまで。」中川さんの言葉には花に向かい、その生の一瞬をとらえることへの身を切るような覚悟がみえる。作品はどれもエロティックで生々しく、そして、究極的に美しい。

先生のオススメ！写真集篇

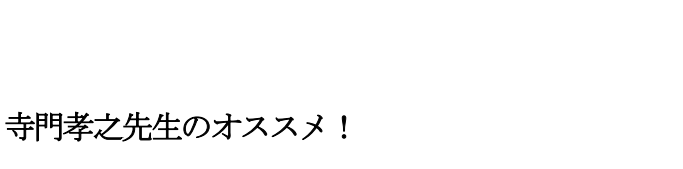


ビジュアルデザイン学科

赤崎正一先生のオススメ！

九龍城砦
宮本隆司／著　平凡社
図書　請求記号： 748 / MIY **【貸出用複本有り】**

九龍城砦と呼ばれた奇観は20世紀の最後の時に地上から消滅してしまった。侵略者イギリスと、その時々中国政府との間で香港は常に宙吊り状態であったが、その狭い土地の中でも特別な真空地帯として九龍城砦はあった。青幫（ちんぱん）の巢窟であり、不法占拠者の楽土であった。また本土の政治闘争からの逃亡者たちの束の間の隠れ家ともなった。宮本隆司は1987年から数次にわたり、この迷宮の内部を撮影した。宮本は建築を撮影することから写真家として出発したが、求めているものは建築の価値を記録することではない。人間の生きた空間の痕跡を陰影に定着することである。宮本のいくつものプロジェクトに通底するものは「この世に棲む」ことの謎への視線の執着である。



飛ぶ紙：ベルナール・フォコン写真集
久保木泰夫／編集・訳・構成　PARCO 出版
図書　請求記号： 748 / FAU **【貸出用複本有り】**

フォコンの写真を見詰めていると・・・とうてい思い出せそうにないことを、思い出しそうになり、ぞくっとなる。たいていは忘れて済ませてしまう10歳くらいで一度、一瞬完成したあの「何か」を、フォコンは徹底してもう一度作り上げる。彼が正方形に閉じ込めた「何か」は、絵のようでも、劇のようでもあるのだが、絵でもなく、劇でもなく、写真でしかおこせない「奇跡」だ。リアルであること。止まっていること。稲垣足穂がどこかに「芸術は幼心の完成」と書いていたのを思い出す。

先生のオススメ！写真集篇



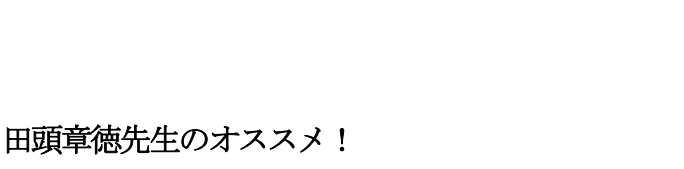
プロダクトデザイン学科

佐野浩三先生のオススメ！

世紀末建築 全6巻
三宅理一、田原桂一／著　講談社
図書　請求記号： R523.06 / SEI / 1~6 **【貸出不可】**

九龍城砦
宮本隆司／著　平凡社
図書　請求記号： 748 / MIY **【貸出用複本有り】**

『世紀末建築』に出会ったのは出版翌年の1985年、出入りしていた建築事務所でした。まだ画像情報が乏しかった大学院生時代、この写真集に圧倒され内部空間やディテールの人間的パワーにすっかりやられてしまいました。当時は高価で手が出ませんでした。が、縁あって今は手元にもあります。同じ1985年、「歯医者者の看板が見えるエリアは大丈夫」という怪しいアドバイスを頼りに香港の九龍城砦を初めて訪れました。『ブレードランナー』を彷彿させる混沌とした「内蔵」のような空間に魅了され、再訪問した1988年に宮本先生の『九龍城砦』（ペヨトル工房版）に出会いました。両極にある写真集ですが、「内側」のエネルギーが炸裂しています。是非、両写真集をあわせて見てください。



壁の本
杉浦貴美子／著　洋泉社
図書　請求記号： 524.82 / SUG **【貸出用複本有り】**

いつも通りの日々をいつも通りに生活する中で、私たちはたくさん素晴らしい出来事や風景に気付かないまま通り過ぎていく。そんなことに気付かせてくれる、ありふれた身の回りの「壁」の表情をただひたすらに撮り続けた写真たち。あるものはモダンアートのようでもあり、またあるものはまるでどこか見知らぬ国の地図のようでもあり…。自然の営みや人の痕跡、時間の流れが刻み込まれた壁は、こんなにも多様な表情を生み出すものなのか。どれもどこかで見たことあるが、気にも留めなかった「壁」が持つ豊かな風景。これらの写真は、クリエイターにはありふれた日常をこそ深く観察する気概と感性が必要不可欠だと訴えかけてくれる。